

市内ロータリークラブ新年合同例会 市長あいさつ原稿

平成31年1月4日（金）12：30～

ホテル辰巳屋 8階 「瑞雲・宝生・瑠璃の間」

明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、お集まりの皆さまには、希望に満ちた新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

本日は、市内ロータリークラブの新年合同例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。本年も貴例会が盛大に開催されますこと心よりお祝い申し上げます。

また、皆さまには長年にわたり、崇高な理念と社会奉仕の精神の基に、社会貢献活動を続けておられますことに対し、心から感謝と敬意を表する次第であります。

さて、就任1年目の昨年は、全力で走り続けた1年でした。東日本大震災および原発事故からもうすぐ8年、未だ復興の途上にありますが、市政は大きく動き始めました。

3月に面的除染が完了し、4月には待望の中核市へと移行、懸案の待機児童数はほぼ半減しました。健康危機管理の拠点として保健所を設置し、新しい夜間急病診療所が上町に移転オープン、地域包括支援センターを全地区に増設し高齢者を支える体制も充実しました。

高速道路網が広がる中、合計5件の企業誘致・立地に成功し、福島大学食農学類が本年4月開設、県立医科大学の新学部も起工と、それぞれうれしい動きがありました。あと1年半余りに迫った東京2020大会では、野球・ソフトボール7試合の実施と大会全体の先陣となることが決定し、オリンピック・パラリンピックにも多数訪問いただき気運が高まってきました。

また、中心部のまちづくりに関する基本方針をお示しするとともに、広域的拠点としての役割を果たしつつ圏域全体の発展を図るため3県にまたがる福島圏域連携推進協議会を設立し、風格ある県都に向けた確かな一步を踏み出しました。

今こそ、福島市が新ステージへと飛躍する絶好のチャンスです。本年は、東北絆まつりが福島市で開催、半世紀を迎える福島わらじまつりが新たな姿に変貌する予定ですし、中心部のまちづくりも具体的な検討に入ります。待機児童問題や防災など身近な課題にも、目に見える成果を出していきたいと思えます。「開かれた市政」「スピードと実行」をモットーに、民産学官の力を結集しオール福島で、市政各般にわたって本格始動させてまいります。

本日お集まりの皆さまには、地域社会のリーダーとして今後ますますご活躍されますことをご期待申し上げますとともに、引き続き市勢伸展のためご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年が皆さまにとって、健康で希望に満ちた幸多き年となるようご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。